

作成日 H 24 年 2 月 10 日作成

事務事業名	H22新規 南アルプス温泉ロッジ周辺整備事業				所属部局	農林商工部		単位番号	6238									
	☐ 実施計画事業				所属課室	観光商工課		課長名	塚原浩二									
					所属担当	観光担当		担当者名	三井孝司									
基本政策	基本計画体系	にぎわいと活力あふれる都市づくり			予算科目	会計	名称	款	項	目	細目	細々目						
政 策		09	地域資源を活かした観光の振興			事業区分	01	一般	0	7	0	1	0	3	0	6	0	6
施策		16	観光基盤の整備				☐ 国の制度による義務的事業 ☐ 県の制度による義務的事業 ☐ 市の制度による義務的事業 ☐ 義務化されている協議会等の負担金	☐ 施設等維持管理事業 ☐ 補助金交付事業 ☒ その他の事業										
事業期間	☒ 単年度のみ ☐ 単年度繰返（開始年度 22 年度） ☐ 期間限定複数年度（ ～ 年度）				法令根拠	南アルプス温泉ロッジ周辺施設関連条例												
事業の内容…期間限定複数年度事業は次年度以降3年間の計画内容も記載 ・南アルプス温泉ロッジ施設の老朽化に伴い、自然環境活用センターと温泉ロッジ本体施設を取り壊し、市営駐車場として整備を行う。同時に、既存施設である休憩棟、休養棟について洋間1部屋を含む改修を行う。白峰会館施設は外壁と通路及び、展望風呂の改修を行う。 ・建築主体工事の外構工事において、県の行う富士の国やまなし補助事業を活用し、駐車場の整備を行なう。・平成22年度で終結する事業	事業費の主な内訳（22年度）																	
	項目(細節)				金額(千円)				項目(細節)				金額(千円)					
	設計管理及び測量				3,013													
	その他工事請負費				145,516													
								計				148,529						

1 現状把握(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

活動	
22年度活動実績	予算の計上、設計委託契約締結
23年度活動予定	設計書の作成、整備工事の実施
対象(この事務事業は誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	
山岳観光を目的として市内を訪れる観光客	
意図(この事務事業により対象をどのような状態にしていくなか、どのように変えるのか)	
利用者の利便性向上を図り、南アルプスの印象を良くする。	
上位目的(どのような結果に結び付けるのか)	
リピーターの増加	

活動指標(事務事業の活動量を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 工程会議の数	回
イ	
ウ	
対象指標(対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 山岳観光を目的とした観光客	人
イ	
ウ	
成果指標(対象における意図の達成度を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 山岳観光客の内便利だと感じた人の割合	%
イ	
ウ	
上位成果指標(結果の達成度を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア リビニター	人
イ	

(2) 事業費・指標の推移

(2) 事業費・指標の推移				単位	21年度 (決算・実績)	22年度 (決算・実績)	23年度 (予算・目標)	24年度 (次年度計画・目標)	25年度 (計画・目標)	26年度 (計画・目標)	最終年度 (トータルコスト・目標)
年間 トータル コスト	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円							
			県支出金	千円	8,708						
			地方債	千円	110,800						
			その他	千円							
			一般財源	千円	29,021						
			事業費計 (A)	千円	0	148,529	0	0	0	0	
	人件費		正規職員従事人数	人	1						
			延べ業務時間	時間	160						
			人件費計 (B)	千円	0	714	0	0	0	0	
			(A) + (B)	千円	0	149,243	0	0	0	0	
活動指標		アイウ		16.0							
		アイウ									
		アイウ									
対象指標		アイウ		68,714.0							
		アイウ									
		アイウ									
成果指標		アイウ	%								
		アイウ									
		アイウ									
上位成果指標		アイ	人								
		アイ									
		アイ									

(3)この事務事業を取り巻く状況(対象者・社会状況等)の変化、市民意見等

この事務事業はいつ頃どんな経緯で開始されたのか？	施設の老朽化のため、平成20年度を持って南アルプス市商工会が指定管理事業から撤退を表明したことにより、新たな施設へのリニューアル計画が持ち上がった。
事務事業を取り巻く状況は開始時または5年前と比べてどう変化しているか？また、今後の予測は？	公共の宿のブームが去り、世界的な経済危機の中で、民間施設がさまざまなサービスの提供を始めた。また、自治体も直営施設を見直し、指定管理者制度への移管が進んだ。
事務事業に対して関係者（市民、事業対象者、議会等）からどんな意見・要望が寄せられているか？	利用者のニーズに対応できる施設とするため、慎重に検討を行うように要望がある。

(4) 改革改善の取り組み状況

改革改善の取り組み実施は？ これまでの改革改善の取り組み状況・経過 (取り組みしていない場合はその理由) H 22年度に実施した改革改善の内容	☒ 取り組みしている 【内容：】 ☐ 取り組みしていない 【理由：】 地域審議委員会の答申を受けて事業の検討を行った。解体撤去施設の補助金返還について、国及び県と協議を行って来た。 南アルプス温泉ロッジ周辺整備検討委員会を立ち上げ、検討を行った。
--	---

事務事業名	H22新規 南アルプス温泉ロッジ周辺整備事業	所属部	農林商工部	所属課	観光商工課
-------	------------------------	-----	-------	-----	-------

2 評価(Check1)担当者による事後評価(複数年度事業は途中評価)

目的 妥当性 評価	政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系の施策に結びつき、貢献しているか？意図が上位目的に結びついているか？	☐ 結びついていない(見直し余地がある) 【理由↓】 ☒ 結びついている 【理由↓】 市内観光振興施策として重要な位置づけにある事業である。	3評価(Check2)・4今後の方向性に反映
	公共関与の妥当性 この事務事業を税金を投入して市が行わなければならないのか？民間やNPOに委ねることは可能か？	☐ 見直し余地がある 【理由↓】 ☒ 妥当である 【理由↓】 市の所有する観光施設である。	3評価(Check2)・4今後の方向性に反映
	維持・継続の妥当性 現状の対象と意図、成果から考えて、この事務事業を将来にわたり、維持・継続していくことは妥当か？目的や事業の必要性を見直す余地はあるか？	☐ 見直し余地がある 【理由↓】 ☒ 適切である 【理由↓】 市の政策に基づき、既存施設を撤去し、有効に活用できる施設として改修を行なう。	3評価(Check2)・4今後の方向性に反映
有効性 評価	成果の向上余地 事務事業のやり方・進め方を変えることで成果を向上させることはできるか？できない場合は何が原因でできないのか？	☐ 向上余地がある 【理由↓】 ☒ 向上余地がない 【理由↓】 検討委員会の答申に基づき、改修を行なう。	3評価(Check2)・4今後の方向性に反映
	類似事業との統廃合・連携の可能性 類似した目的を持つ事務事業が他にあるか？類似事務事業がある場合、その事務事業との統合や連携を図ることはできるか？	☐ 類似事務事業がある (類似する事務事業の名称を記入↓) ☐ 統合・連携ができる 【理由と具体案↓】 ☐ 統合・連携ができない 【理由↓】 ☒ 類似事務事業がない	3評価(Check2)・4今後の方向性に反映
	休止・廃止した時の影響及び休止・廃止の可能性 この事務事業を休止・廃止した場合影響はあるか？また成果から考えて、休止・廃止することはできるか？	☐ 影響なし ☒ 影響あり 【理由と影響の内容↓】 既に予算計上され、事業が進行している。	☐ 休止・廃止ができる ☒ 休止・廃止できない 【理由↓】 市の観光振興施策として必要な位置づけを持つ事業である。
効率性 評価	事業費の削減余地 成果を下げずに事業費(コスト)を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある 【理由・具体案↓】 ☒ 削減余地がない 【理由↓】 検討委員会の答申に基づき、定められた予算の範囲において改修を行なう。	3評価(Check2)・4今後の方向性に反映
	人件費の削減余地 成果を下げずに人件費を削減できないか？(事業のやり方の見直しによる業務時間の削減や臨時職員対応や外部委託による削減はできるか？)	☐ 削減余地がある 【理由・具体案↓】 ☒ 削減余地がない 【理由↓】 最低限の人員で対応している。	3評価(Check2)・4今後の方向性に反映
公平性 評価	受益機会・受益者負担の適正化余地 事務事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？受益者負担を見直す必要はないか？公平公正か？	☐ 見直し余地がある 【理由・具体案↓】 ☒ 公平・公正である 【理由↓】 業者の選定は、指名競争入札により行なわれている。また、施設改修の目的が、特定の団体及び個人を対象としていない。	3評価(Check2)・4今後の方向性に反映

3 評価(Check2)担当課管理者による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 1次評価の総括(事務事業を実施した結果を振り返り気づいたこと、課題、今後の方向性等について)
目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり 有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	本事業は、平成22年度事業完了したものである。山岳観光拠点として来訪客の心温まるもてなしの拠点として有効である。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事務事業の方向性(Check1の結果から定める)・・・複数選択可	(3) 改革・改善による方向性																					
☐ 廃止(目的妥当性 、 、 の結果) ☐ 事業統合・連携(有効性 の結果) ☐ 公平性改善(公平性 の結果) ☐ 休止(目的妥当性 、 、 の結果) ☐ 成果向上(有効性 の結果) ☒ 現状維持(全評価項目で適切) ☐ 必要性検討(目的妥当性 、 、 の結果) ☐ コスト削減(効率性 、 の結果)	<table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト水準</th></tr> <tr> <th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr> <tr> <th rowspan="3">成果水準</th><th>向上</th><td>☐</td><td>☐</td><td>☐</td></tr> <tr> <th>維持</th><td>☐</td><td>☒</td><td></td></tr> <tr> <th>低下</th><td>☐</td><td></td><td></td></tr> </table> 廃止・休止の場合は記入不要			コスト水準			削減	維持	増加	成果水準	向上	☐	☐	☐	維持	☐	☒		低下	☐		
				コスト水準																		
		削減	維持	増加																		
成果水準	向上	☐	☐	☐																		
	維持	☐	☒																			
	低下	☐																				
(2) 改革改善案について																						
(4) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策	(5) 事務事業優先度評価結果																					
	<table border="1"> <tr> <td>成果優先度評価結果</td><td>対象外</td></tr> <tr> <td>コスト削減優先度評価結果</td><td>対象外</td></tr> </table>	成果優先度評価結果	対象外	コスト削減優先度評価結果	対象外																	
成果優先度評価結果	対象外																					
コスト削減優先度評価結果	対象外																					